



1 2023

発行所 大阪府中央区玉造2-24-22 カトリック大阪大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700(代表) TEL (06) 6946-3223(直通) FAX (06) 6946-3224(直通) E-mail: jho@osaka.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」があります。〈無料〉 ※ご希望の場合は下記まで申込み 「点訳版(点字本)」 時報 ☎06-6946-3223(直通) ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・デジ)」 山口さん ☎0798-34-4228

- ☆ ベトナム神学院訪問 ☆ 聖地巡礼 (2画)
- ☆ りんくろロック・豊中・明石教会設置式 (3画)
- ☆ 司牧者から若者たちにこの一冊 (3画)
- ☆ ラジオ「信仰の時間」中島貴幸神父 (4画)
- ☆ 2023年教区年間予定 (5画)
- ☆ イエスにならう生き方を求めて (6画)
- ☆ イスラムとの対話 ☆ 教区監 (6画)
- ☆ ラジオ「信仰の時間」中島貴幸神父 (4画)
- ☆ 査の集い ☆ 生きるー難民移住者 (7画)

『時報』原稿・資料等の締切は毎月末日です。

世界子ども助け合いの日(献金) 2023年1月29日

2023年新年メッセージ

新春の希望の旅やシノダリティ

大阪教区大司教・枢機卿 前田万葉

皆さま、クリスマスと新年のお慶びを申し上げます

2022年は3年余りの「コロナ禍」、1年近くも続く「ウクライナ危機」という重苦しい年でありました。一方では、「ヨセフ年」から「シノドス開始」へと希望の歩みも始まりました。教皇庁ではそのための改革が始まり、2025年の聖年も「希望の旅」とテーマを決め、「希望に満ち溢れる教会」を目指しています。

はじめに

「シノドス」といえば、誰もが「教皇と全世界の司教がともに歩むための会議(世界代表司教会議)」だと思っていました。しかし、第16回シノドスはこれを覆すかのように、「教皇も司教も含めて、全世界のすべての信者がともに歩むための会議」と位置付けられました。大きな改革でありました。

再宣教150年の動き

大阪教区も2018年の再宣教150周年を、教皇フランシスコとともに「感謝をもって過去を振り返り、熱意をもって現在を生き、希望を持って将来に向かう」ための、再出発と位置付けました。そして、『再宣教150年記念誌』で、これからの大阪教区の展望について、次のような意見や思いをまとめました。

2022年8月29・30日には「教皇と全枢機卿会議」があり、教皇庁機構改革(ともに歩むため)について意見交換がなされました。10月12日から30日まで、FABC(アジア司教会議)の50周年総会が行われ、同じく、ともに歩むた

め、FABCの機構改革の必要性にまで話が及びました。いずれも枢機卿、司教たちばかりでなく、司祭、修道者、老若男女、障がい者など、あらゆる人びとがともに歩むことのできる機構改革を目指すものでした。11月の広報省総会においても、「あらゆる立場の人びとがともに」と強調されました。



バチカンの広報省総会にて

「今後の方向として、小教区、地区、教区のそれぞれの中で、これまで取り組んでいたシノドスに向けた準備の作業(分かち合い、霊的識別の探求)を「シノドス運動」として継続し、具体的な刷新を実現する方向を整えていくことが望まれます。教皇が使徒的勧告を出されたら、その使徒的

「新生計画が策定された1995年頃の状況に比べて、現在は社会も教会も異なってきました。外国人の信徒数が増加していることは確かです。つまり、外国から来ている信徒たちとの交わり、協力、協働が欠かせません。具体的な取り

組みを始めていかなければなりません。もはや、『日本人の教会』ではなく、『日本に住む人びとの教会』であることを意識して、対応することは大切でしょう。聖霊の導きにより、信仰の「深まり」を大事にし、視野を広げて多くの関わりを『広げる』を通して、『橋を架ける』使命を生きてい

教区準シノドスの動き

大阪教区シノドス担当チームからは、2022年6月に次のような報告書が出されています。

「祈りのうちに現実を識別しながら、信仰者仲間としてともに歩んでまいりましょう」。

終わりに

「今後の方向として、小教区、地区、教区のそれぞれの中で、これまで取り組んでいたシノドスに向けた準備の作業(分かち合い、霊的識別の探求)を「シノドス運動」として継続し、具体的な刷新を実現する方向を整えていくことが望まれます。教皇が使徒的勧告を出されたら、その使徒的

「祈りのうちに現実を識別しながら、信仰者仲間としてともに歩んでまいりましょう」。



コミュニオン ~つながり育つ子どもたち~

したらどうでしょうか。そのためにも、シノドス「ともに歩む教会」交わり、参加、そして「宣教」のための養成は必須であります。さまざま提案の声を取り入れていくのは今からです。分かち合いや意見の交換、シノドスの課題やこれからどういふふうに進んでいくかなど、各小教区、修道会、カトリック施設、各種会や家庭など小共同体でとことん話しあっています。最後の識別は司教や司教として教皇がすることになるとありますが、皆で雰囲気を作り、いろいろなところに分かち合いのチャンスを生んでいき、正しい「識別」ができますように、ともに祈り、考え、歩むことにいたします。